



日 時 昭和52年11月13日(日)

12時00分 開場

12時30分 開演

会 場 市民会館ホール

主 催 浜松市教育委員会

共 催 浜松社会人演劇連盟

# \*\*\*\*\*出 演 順 序 \*\*\*\*\*

12時30分～14時00分 演劇サークル「鬼の村」

シェイクスピア作 根岸辰男演出

静岡県芸術祭参加 「真夏の夜の夢」

14時20分～15時50分 浜松放送劇団

寺島アキ子作 村越一哲演出

静岡県芸術祭参加 「くみひも」

## 演劇サークル「鬼の村」

### 「真 夏 の 夜 の 夢」 シェイクスピア作

#### 《キャスト》

ハーミア 小松恵美子  
ライサンダー 沖 隆史  
ディミートリアス 中村俊晴  
ヘレナ 新田政子  
オーベロン 桐野洋子  
タイターニア 佐藤邦子  
パック 大石准子  
小妖精1 山本和子  
2 栗林登志子  
3 加藤けい子

#### 《スタッフ》

演出 根松 岸本村 井田丸岸川 男志次泉彦子  
舞台監督 中平根名市 井川川 武昌敏文辰賢  
舞台美術 装置 平徳根名川 正二正子  
効果 照明 明川 真理子  
衣裳 メイク 佐藤真紀予

真夏の夜、アセンズ（アテネ）郊外の森の中に、駆け落ちしようとするハーミアとライサンダー、ハーミアを慕うディミートリアス、ディミートリアスを慕うヘレナが集まっている。この森は妖精たちおよび妖精の王オーベロンとそのお后タイターニアの住処になっている。オーベロンは、ディミートリアスにつれなくされるヘレナを見て同情し、いたずらものの妖精パックに命じて二人が愛し合うようせよと指示する。しかしパックは、惚れ薬の使用を誤ったばかりに、男女四人のうえにとんだ騒ぎが持ちあがってしまう。……

この世ならぬ月の光の中で、人間と妖精が繰り広げる詩情豊かな幻想的喜劇。きっとみなさんを、夢の世界へと連れ込み、楽しませてくれることでしょう。

青鬼オス！ 私達は、働きながら学ぶ浜松短期大学Ⅱ部の学生です。「鬼の村」も、今年で五回目の芸術祭を迎えました。私達のサークルの最大の悩みは、練習時間と練習場所の問題です。仕事を終え講義を受ければもう8時40分。それから、青鬼、赤鬼の住民達が、サークル室に集まって練習を始めるのです。いつの間にか時間が来て……「今日も練習が、思うように進まなかった。」仕事も楽し、講義も楽し、サークルも樂しなくて甘いことばかりでは決してありません。仕事も苦しい、試験もある、サークルもうまくいかない。合宿での徹夜の話し合い。……

一つ一ついろいろな問題を解決して来た、青鬼、赤鬼の面々です。「演劇が初めて！」と言う人がほとんどですが、みんなで力を合わせてやって来ました。どうぞよろしく。

赤鬼メス！ 一村長一

# 浜松放送劇団

## 「くみひも」

寺島アキ子作

### 《キャスト》

ヒサ 鈴木 美津江  
綾子 鈴木 多見子  
和夫 高崎 勝則  
健造 古賀 昭隆  
清吉 岡本 和孝  
男 岡山 下幸

### 《スタッフ》

演出 越栗村  
舞台監督 小中西横砂  
装 照明 石村三崎  
効果 衣裳 水屋美多  
置 康元 恵子

東京オリンピックを来年に控えた昭和38年頃の伊賀上野市。

高度成長の波はこの盆地の小都市にも容赦なく押寄せ名産の伊賀のくみひもも手組みから機械にとって代り製品もネクタイからベルトにまで及ぶと云う様な大変な時代に突入していた。

そんな中でヒサは頑なにまで手組みの伝統を守り品のある組みひも作りを染屋の息子である和夫を相手に専念していた。

或る日、娘の綾子が三年半ぶりに帰って来た。久しぶりの邂逅に手をとり合って喜び合う母と娘。然しその喜びも長くは続かなかった。現代的な娘と古風で一途な母とでは所詮合う筈はない。綾子の縁談話から話はこじれて次第に鋭く対立していく。

「うちかてな、手組みの良さは分っているつもりや……けど古いものって古い人間関係みたいなものがまつわりついている様で……それが何よりもいやなんや……あの紐を組む音を聞いていると……女の……業というか……そんなものの悲哀が……組みあげられていく様な……そんな気がするんや。」

綾子のそんな気持をよそに、和夫はヒサに頼まれた御影石に緑青の色を染めあげて届けにくる。そして……。



### 劇団紹介

創立は昭和22年ですから、本年で30年の歴史が積み上げられたと云うことになります。出演した作品（ラジオ・テレビ・舞台等）は千本以上になっています。

第一回の舞台公演は、「夜の春雷」（作間宮研二）、「あこがれ」（作槍双六）でしたが、それ以来多くの作品を上演し、県芸術祭賞や、市芸術祭20周年表彰を受賞し、浜松地方では最も歴史の古い劇団として活躍してまいりました。

数年前から、「中央の劇団では真似の出来ない仕事をやろう」と云う事で、郷土の作家が郷土に取材した作品を上演し獨得な演劇文化を創造していくことを努力しております。

既に、48年度上演「告発」を始めとして三作を上演し、第四作目として「遠州倉松十番斬」（仮題）の取材を終了し、劇団創立30周年記念公演のため準備を進めています。なお最近では、ラジオドラマの製作も再開しました。ラジオに舞台に出演してみたいと思っている仲間の来訪を待っています。

「郷土路線」を成功させ持続させるためにも皆様のご支援をお願いいたします。

=連絡先= 浜松市鍛冶町 丸市商事内 村越一哲 電話 (54) 8151

## 劇団紹介

# 劇団からっかぜ

劇団からっかぜは今年の芸術祭には残念ながら参加できません。それは今準備している三部作「愛」をどうしても自主公演にしたかったからです。そこでこの一年の活動と来年の上演計画を皆さんに報告します。

★昨年芸術祭に上演した「わんぱく地獄やぶり」を1月に呉松町地域サークルの人達と成功させた呉松公演、そしてそのすぐ後の県移動公演（引佐町にて）と元気いっぱいの公演活動。しかし芸術祭は無料上演のためこの作品では市内自主公演（有料）はできません。一つの作品を仕上げる経費が数10万円かかります。これは浜松市芸術祭の今後の大変な課題です。

★4月にはスペイン戦争を描いたカルラールのおかみさんの銃（B・プレヒト作）—40年前スペインで起ったことが4年前チリでくり返された。そして今年スペインでは今やっと国会選挙が再開され40年間の夜に光がさしてきている。僕達は今一度スペイン戦争について、ファシズムについて考えよう。

★7月には「じんばい」（小寺隆詔・作）東北の海に生きようと決意する若者の物語—

★8月には東日本リアリズム演劇会議の総会・ゼミナールに（舞阪町民センター・新居清風荘）300名の各地の劇団の仲間をむかえ目のまわる様な毎日でした。

★★今からっかぜは第6回からっかぜ小劇場三部作「愛」（勝山俊介・作）にむけてケイコの最中です。“今日を大切に生きよう”二度とない青春を前に向いて力のかぎり生きぬこう。その中ですばらしい「愛」を生み出していこうと。

2月22日(水)・23日(木)▶6:30 開演 浜松児童会館

2月26日(日) ▶1:00, 5:30開演 青年婦人会館

大人 800円 学生 600円

## 第14期研究生募集中

■連絡先 浜松市曳馬町1409 劇団からっかぜ TEL 63-6011